

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所理念を職員の目の届くところに掲示をし、自分たちの考えの原点として立ち戻る場所としている。	法人理念、事業所理念をホーム内に掲示し、職員間で共有しつつ実践に繋げている。とよしな敬老園としての「今年度の取り組み目標」も合わせて掲示し支援の重点として取り組んでいる。また、新入職員の入職時や異動時にはオリエンテーションの場において「事業所理念」の主旨を伝え、利用者に寄り添うようにしている。家族に対しては利用契約時に理念についての説明を行い、ホームの取り組み姿勢を明確にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣外出時地域の方から声をかけていただく事が多くなり、交流する機会も増えました。回覧板を届けてくださったり、地区行事にもお誘いいただけるようになった。毎年近隣の中学校の福祉体験やボランティアを受け入れている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。回覧板に合わせ区長より地域の情報を頂き地区社協主催の食事を初めとし参加できる行事には積極的に参加し、地域の人々との交流を深めている。また、市の夏祭り「安曇野まつり」に合わせホームの夏祭りを同時に開催しており、地域の人々も数多く来訪し利用者と気軽に交流している。更に、毎年行われる「安曇野マラソン」の応援に参加したり、地域の中学校の文化祭にも出掛け地域の人々との交流の場を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣居宅事業所より家族に対して認知症介護について相談依頼を受けお話をさせていただく機会もあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催をしており、サービス状況などをご報告させていただくとともに、地域活動等お聞きするようになっている。	家族代表2名、区長、民生児童委員、市高齢者介護課、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月の第2火曜日に開催している。入居者状況、活動報告、サービス提供報告、行事予定の告知などを行い、委員や職員との意見交換から必要な事項をサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には出席依頼、事業所の取り組みを報告させていただく。また課題等はその都度ご相談させていただいている。	市高齢者介護課とは連携を密にし、入居に対しての相談、生活保護受給者の入居等について相談し助言を頂いている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、立ち会われる家族もいる。市主催の地域づくりの会にも区長と共に参加し情報を共有している。また、年4回開かれる安曇野市グループホーム連絡協議会にも参加し、他事業所との交流も深め支援に役立てている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地区内での研修会を通じ身体拘束へに理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上・実践につなげている。	身体拘束をしないことを前提としたケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが各ユニットの入り口ドアは車の往来の多い地区でもあり安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い方がおられるが、話をしつつ1回は外に出て納得していただくよう進めている。転倒危惧のある方もおり、家族と相談し足元センサーやセンサーマット使用している。身体拘束の研修会を年2回行うことに合わせ、毎月の合同会議の中で身体拘束適正化委員会を開き意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修会を通じ虐待へに理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上に努めている。また2か月に1度身体拘束適正化委員会を開催し確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて参加・受講し、スタッフ会議前に伝達研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前の説明をし、ご家族に契約内容をご理解・ご確認していただいた中で締結としている。報酬改定時もその都度ご家族にむけ説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の中で思いをくみとり、職員間での情報共有・ケアへの跳ね返りを実践している。各階に意見箱の設置。ご家族面会時にはご利用状況をお伝えしている。月1回はご利用状況についてお手紙と写真をお送りしている。	殆どの利用者は意思表示の出来る状況であるが若干名の方が難しい状況である。家族からお聞きした情報も参考にしながら日々接する中で表情や行動等の情報を共有し1人で判断せずに職員間で確認し合い、利用者の思いを汲み取るよう心掛けている。家族の来訪は週2～3回、週1回位という状況で来訪の際には居室で寛がれ職員とも親しく話をされている。新年会、敬老会には大勢の家族が来訪され、食事会、OBボランティアの出し物等で楽しい1日を過ごしている。また、夏祭りはバーベキューやスイカ割等のゲームで盛り上がっている。更に誕生日、母の日には家族より「花」のプレゼントなどが届いている。また、毎月担当職員より生活の様子を写真と共に「お便り」にしてお届けし家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議の報告を事業所会議内で報告をし、職員間の情報共有に努めている。その中で意見をいただいたり、年4回ほど個別面談を実施し、意見・提案をいただいている。	毎月第2火曜日の午後5時30分より職員会議を行い、前半は合同で地区会議の報告、各委員会からの報告、外部研修の報告、行事予定の、等を行い、後半はユニット毎に分かれ利用者個々のケア会議を行っている。人事考課制度があり目標管理シートを用い進捗状況の自己評価を毎月行い、3ヶ月に1回管理者による個人面談が行われ、スキルアップと合わせ業績評価にも繋げている。また、法人として年1回職員のストレスチェックも実施されている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で取り組んでいる、人事評価制度を基とし運営。また各自目標を明確にしながら日々取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT OFF-JTの実践。また受講後は研修報告会を行っている。ケア会議でも各職員の考え方や視点を聞くことにより自分自身の振り返りにもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業所連絡会にも参加したり、市内のGHIにも施設見学をさせていただいた。また安曇野市主催の在宅医療・介護連携に関する多職種連携研修会にも参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がご利用者と同じ目線の中でコミュニケーションをはかっている中で、ご本人の言葉に耳を傾け思いをくみ取れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や事前面談を実施。その中でご本人の背景やご家族の状況や思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい環境を整え言葉や表情からご本人・ご家族の思いをくみとりながらサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど生活していく中でお互いに支え合う関係作りにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはお誘いの案内を送らせていただき、参加していただいたり、ご本人が誕生日には許す限りご家族も一緒にお祝いしている。家族の方も気軽に来て頂けるような環境・関係作りを努めている。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方も定期的に来所されたり、ご家族のご協力もいただきながら自宅へ戻ったり、行きつけだったお店へ食事・買い物などご利用前からの関係が継続できるように支援している。	友人、近所の方、地区の民生委員の方等、三分の一強の利用者に来訪が有り、お茶をお出しし居室にて寛いでいただいている。中には近所どうしの関わりで「茶のみ友達」が定期的に来訪され迎える利用者もいる。独居から入居された方も三分の一ほどいるが、家族の協力も頂きながら馴染みの美容院に出掛けたり、自宅を見に行くこともある。年末には利用者個々の年賀状を作成し家族に発送予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニット9名だけの関係性ではなくお互い気軽に行き来ができるよう配慮させていただき2ユニット18名の関係がより深くなるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々にも期間を置きながら、GHでの生活を冊子・写真アルバムとしお渡ししながら、ご家族の想いに寄り添えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活史を知りまた見返しをしながら、日々の生活の中で思いや希望の把握に努めている。月に1度のケア会議でもご本人の意向をもとに職員間でも意見交換を実施し実践につなげている。	利用者の大切にしていること、その人らしさは何かを把握することに力を入れ、職員同士で話し合い、意思統一を図り、「二者択一」の選択肢も含め利用者の希望を受け止めるようにしている。また、家族からお聞きした生活歴も参考しながら1対1で話をする機会を多く取るよう心掛け、日々の気づいた言動等は業務記録に纏め、申し送り時に口頭でも確認し合い意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族からの情報収集はもちろんのこと、利用してきたサービス機関にも訪問をしながらご利用状況などをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし申し送りに記録と口頭にて実施し点でなく線でのケアにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で本人・ご家族のご意向と共にユニット職員全員で計画作成を行っている。	職員は2名の利用者を担当し、家族との窓口、ケアプランの原案作成、日用品の補充、個人別お便りの作成等をしている。家族の希望は面会時にお聞きし、原案を基にケア会議で話し合いを行い3ヶ月に1回モニタリングを行い、短期目標6ヶ月で計画・作成し、中間3ヶ月で検討を行い、変化が無ければ長期目標を1年とし進めている。また、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし記録方法についても統一を図る。申し送りの記録と口頭にて実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に応じて医療機関への通院や買い物・散歩などの外出にはご家族の代わりに行ったり、散髪・予防接種をおこなったり柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と共に外食や買い物に出かけたり、地区の会食会にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族のご意向を大切に主治医との連携を図っている。急変時には協力医療機関に相談できるような体制は整えている。	入居時に利用者、家族の希望をお聞きしている。現状、入居前のかかりつけ医利用の方は半数弱で、家族付き添いの受診で対応し、現在の状況、バイタル等をお手紙にして持参して頂いている。他の利用者はホーム協力医の3つの提携医の月1回の往診で対応している。合わせて法人の訪問看護師の来訪が毎週水曜日にあり、利用者の健康管理に努めている。歯科については希望に合わせ提携歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回入っており、急変時等相談支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には生活状況の伝達。主治医への連絡をおこなう。入院時も面会に行き情報の共有をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては入所時の説明と、終末期に関してはご利用者・ご家族の意向を尊重しながら、関係機関と連携し方向性をだしている。	重度化に対する指針があり利用契約時に説明を行いサインを頂いている。終末期に到った時、家族、医師、訪問看護師、ホーム職員との間で話し合いを行い、家族の希望をお聞きし、方向性を纏め、改めて終末期支援の同意書にサインを頂き看取り支援に取り組んでいる。家族ときめ細かく連携を取りながら看取りを行い、ホームに泊まる家族もおり、本年度2名の看取りを行った。看取り後は振り返りの機会を持ち、職員のケアも含め次回に繋げるようにしている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認・周知。緊急連絡先の確認。救急救命の研修の参加し、伝達研修を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回の実施。消防署にも協力いただきながら実施。夜間想定とし連絡網の確認。	年2回春と秋に防災訓練を行っている。1回は消防署立会いで行い、消火器の使い方実習、救急救命(AED)の使い方の実習等を行っている。合わせて火災想定避難訓練では利用者全員が玄関先まで移動しての訓練を行っている。また、夜間想定訓練では夜勤者の行動確認、緊急連絡網の確認を行い、防災への意識を高め取り組んでいる。備蓄は「お米」「味噌」「乾物」「レトルト食品」が3～4日分準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人・事業所理念に立ち返り言葉使いなど注意しその方にあった話し方・接し方に配慮している。	利用者個々のプライベート空間を大切にできるよう気配りをして取り組んでいる。言葉遣いには特に気を付け、事業所理念にあるように「人生の先輩、教わろう」を心に留め、気持ち良く過ごして頂くよう心掛けている。呼び方は希望により苗字、名前に親しみを込め「さん」付けでお呼びしている。合わせて「同性介助」にも配慮した支援に取り組んでいる。また、年1回接遇研修を行い意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に生活させて頂く中で希望・想いを聞き取れる場面作りをしている。それを記録として残し反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	線でのケアができるよう、口頭での申し送りと、体調・表情などからご本人のご希望を的確にとらえケアしていくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装の決定や、定期的に美容師に来てもらいカットはもちろん毛染めも対応していただいている。朝にはご自身で鏡をみて身だしなみを整え確認している。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬のものを取り入れ、調理から片付けを一緒に行いながら教えていただいたり、感謝の気持ちもお伝えしている。一緒に食事をしながら、気持ちを共有している。	利用者のうち自力摂取できる方が三分の二名、一部介助の方が数名、全介助の方が若干名という状況である。献立は法人の管理栄養士が立てたメニューを調理士がアレンジしている。職員も利用者と共に食事を摂り、話をしながら楽しい時間を過ごしている。誕生日には希望をお聞きし「回転ずし」等の外食に出掛けている。また、年末年始、敬老会、夏祭り等の行事の際には季節に合わせた料理をお出している。合わせて「焼き芋づくり」「おやき」「ホットケーキ」等、おやつ作りも全員で楽しみながら行っている。お手伝いは下準備から後片付まで力量に合わせ利用者も楽しみながら参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった食事形態での提供、毎食の食事量や水分量を把握している。水分についてはお茶だけではなく工夫しながら提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けをし、職員も支援させていただいている。ご家族の希望で訪問歯科を利用させている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンを確認しながら、早めに声掛けや支援をさせていただいている。	自立されている方は若干名で、見守りで一部介助の方が三分の二強名、全介助の方数名という状況である。排泄チェック表を用いケア会議で共有しパターンに合わせてトイレにお連れしている。合わせて起床時、おやつ前後、食前食後、就寝前には声掛けを行い気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。また、排便促進を図るべく、1日1,200CCの水分摂取を心掛け取り組んでいる。合わせてパットの大きさを工夫することにより介護用品の費用削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維の多いものの提供や、水分をこまめに提供したり、運動も毎日の中で取り入れ排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望にあわせ、入浴に対し拒否される方にも、言葉かけや対応を工夫しながら柔軟に対応している。	全利用者何らかの介助が必要な状況である。1階は一般浴槽、2階は浴槽が上下する特殊浴槽が備え付けられ、全利用者に心配りした浴室となっている。日曜以外の週6日間入浴を行い、基本的には週2回入浴を行い、希望により3回入浴される方もいる。入浴拒否の方もいるが時間を変えたり工夫をし対応している。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しながら、日中の活動夜の休養がしっかりとれるよう個々の生活リズムを尊重しケアしている。夜間も定時巡視をし迅速に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の観点も含め服薬前には名前と顔の確認飲み込みまで見守らせていただいている。また内服内容の変更時は日誌・口頭にて共有し経過についても記録しご家族・主治医に報告させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の掘り起しと共にご本人の得意なことや役割を提供し、喜びを感じられるよう支援につとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはベランダで外気浴をしたり、ご飯を食べたり。近隣の公園・お寺・デパートへ出かける機会を設けている。ご家族協力のもと外食・ご自宅へ帰ったり誕生日には一緒に祝いしている。	外出時、自力歩行の方が三分の一、車イス使用の方が三分の二という状況である。日常的には1階、2階を階段を使って行き来したり、広々とした廊下を歩き機能低下を防いでいる。また、天気の良い日にはベランダに出て外気浴を兼ねお茶を楽しんでいる。合わせて日曜の午後には近隣の公園まで散歩に出掛けたり、デパートに買い物に行き、外の空気に触れている。更に、季節に合わせ「花見」や「バラ公園」の見学などにも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって好きなものを買ったり、ご自身で精算したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に暑中見舞いを出し、ご家族からお手紙をいただいたり、電話も希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはカレンダーや大きな木を貼り付け、季節に応じてご利用者と一緒に張り替え季節感を出している。またみなさんと共同制作したものについても飾り付けをしている。テーブルに花を飾ることにより見て楽しむこと、管理することも日課としている。	玄関を入ると陽当りの良いホールと十分な広さが確保された廊下があり開放感が感じられる。そのような中、テレビを見たり、会話を楽しみ、思い思いの時間を過ごしている利用者の姿が見られた。壁には利用者全員で作上げた貼り絵作品や書道が飾られている。合わせて毎年福祉体験で来訪する中学生から送られた「寄せ書き」も飾られ、ホームでの活動の様子を窺うことができる。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室なども利用していただきながら、ご利用者同士で話をしたり、食事をしたり同じ時間を共有している。全室個室のため居室にて本や新聞を読んだりできるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご本人の馴染みの湯のみや茶碗・家具などもご家族とも相談しながら環境を整えている。居室内にご家族との写真や行事で作った作品なども飾らせていただいている。	陽当たりが良く明るい各居室は洗面台とクローゼットが備え付けられ暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、衣装ケース、イス等が置かれ、壁には家族の写真、職員から送られた誕生日のお祝いメッセージ等も飾られ、合わせて季節の花等も置かれ、自由な日々を送っていること垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前とトイレの床を変えわかる工夫をしている。また整理整頓を心がけながら移動のしやすい環境設定をしている。		